慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	北支考古學調査班報告
Sub Title	
Author	大山, 柏(Oyama, Kashiwa)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.17, No.2 (1938. 11) ,p.175(321)- 177(323)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報 支那學術調査團考古學班報告
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙　報

支那學術調査團考古學班報告

本塾大學部史學科の支那學術調査團考古學班は、五月上旬東京を出發して約二ヶ月に亙り、北支及び中支に皇軍慰問を兼ねて、古代遺蹟の學術調査に當り、多大の成果を收めて歸塾した。此處に掲ぐるのはその參加各班の報告である。

北支考古學調査班報告

大山　柏

一、旅行方針

北支方面に於ける皇軍の慰問を兼ね、同方面の考古學的調査を行ふを目的とす。

二、旅行計畫

以上の方針に對し昭和十三年五月上旬東京を出發、約二ヶ月の豫定を以て、陸路先づ北京に至り、軍の了解を得るに於ては、左記の二ヶ所を主調査目標として時日の許す限り發掘を行ふ。

一、河南省安陽（彰德）郊外後丘に於ける彩陶遺跡

二、山西省大同縣大王村乃至小王村史前遺跡

三、北支班の編成

班長　大山　柏
助手　大給　尹
撮影監督　木村信兒
撮影技師　吉田勝亮
同助手　八子治男

四、慰問せる部隊及機關

十六ヶ所

五、旅行實施

五月九日東京を出發、大連、旅順、奉天、山海關、天津を經て五月十九日北京著、軍の了解許可を得、且つ其注意により速に出發、河南安陽に向ふ。

五月二十四日夜安陽著、各方面の了解を得たる後、同地郊外の後丘の外、新に高樓莊戰車壕中に彩陶並に漢陶を夫々包含する竪穴遺跡を發見、極力この竪穴遺跡を發掘調査せる爲、豫定を變更して六月十一日まで滯在、一通りの發掘調査を終了後、同地郊外小屯に於ける所謂殷墟を見學調査し、六月十二日北京に歸著。

六月十五日より大同旅行に向ひ、十六日同地著豫定の大王村、

小王村に就て百方搜索せるも其位置を發見し得ず、其の起因を調査せる結果、これ等の地名は同地の骨董商の遺物出土地として述べるに過ぎず、其存否も不明の由なり。依りて止むを得ず石佛寺を見學して歸途に就く、途中張家口に於て高家屯及び南察房の漢陶散布地を見學調査して、同月二十日三度北京に歸る。

北京に於ては中南支方面より來著せる柴田班一行と會合せり、此間北京郊外古廟村の漢陶散布地を見學調査し、故宮歷史博物館を見學す。

六月二十五日北京を出發して歸途に就き、奉天、大連を經由して七月一日東京に歸著。

六、主要調査並に見學事項

一、主要發掘調査

(1) 河南省安陽郊外後丘

後丘東側外壕底を更に掘下し、漢陶片及青銅鏃等を出土し、表面下三米に達し、純黃土層にして有機土を交へざるを認め中止す。

(2) 同高樓莊戰車壕內　〃

彩陶包含の竪穴（外壁第二號）を徹底的に發掘調査し多數の彩陶片を主とせる遺物を採集す。

同時に漢陶のみを包含する竪穴（外壁第七號）を發掘し、多數の漢陶の外、龜板、獸魚骨其他を採集す。

(3) 後丘附近

後丘外壕內外より、多數の漢陶を主とせる遺物を採集す。

(4) 安陽附近の收得遺物は、彩陶、漢陶を主とし、石器、骨角器、貝器、青銅器、獸骨等約百袋。

二、表面採集調査

(1) 河南省安陽郊外、小屯所謂殷墟土器採集の外、若干購入。

(2) 張家口郊外、高家屯並に南察房各一袋の土器採集。

(3) 北京郊外古廟村、約一袋の土器採集

三、主要見學個所

(1) 旅順博物館
(2) 大連滿蒙資源館
(3) 奉天博物館
(4) 天津英租界博物館
(5) 安陽城內故物保存所
(6) 北京故宮歷史博物館
(7) 大同石佛寺
(8) 北京故宮

七、調査始末

一、旅行經過の概要は三田新聞上に「北支行囊」と題し、四回に亙り發表。

二、旅行中一、二の感想を大阪每日新聞に「北支銃後行」と題し、前後二回發表。

三、旅行の紀行は「北支調査行」と題し、史前學雜誌に發表の豫定。

四、今回調査研究の概要は、遺物到着の上、「北支考古學班調査

豫報」として、史學に發表の豫定。

五、今回調査旅行の研究報告は遺物當局と協議の上、何等かの形式にて塾より發表を行ふ。

中支考古學調査班柴田班報告

柴田常惠

今回支那の考古學的調査と並に皇軍慰問の命を受けて占領地に向け、五月十一日東京出發、七月十九往復七十日にして歸京したり。依て復命す。

一、目的

支那に於ける考古學的調査、並に出征軍人の慰問。

一、人員

班長　講師　柴田常惠
班員　學生　清水潤三

五月十一日　東京發
同　十四日　上海著
同　十七日　上海發、南京著
同　廿六日　南京發、蕪湖著
同　廿八日　蕪湖發、灣沚鎭著
同　廿九日　灣沚鎭發、南京歸還
同　卅一日　棲霞山踏査
六月二　日　南京發、鎭江著
同　四　日　鎭江發、蘇州著
同　七　日　蘇州發、上海歸還
同　九　日　上海發、杭州著
同　十四日　杭州發、上海歸還
同　十八日　上海發
同　十九日　青島著
同　二十日　青島發、濟南著
同　廿二日　濟南發、天津著
同　廿三日　天津發、北京著
七月四　日　北京發
同　五　日　大同著
同　　日　大同發、雲崗鎭著
同　六　日　雲崗鎭發、大同歸著
同　七　日　大同發、北京歸還
同　八　日　北京發（天津、奉天を經て）
同　九　日　大連著
同　十六日　大連發
同　十九日　東京歸著

一、踏査

右記の如き日程を以て踏査せり。なほ松本班とは五月十一日東京出發以來、南京到著迄行動を共にし、南京に於いては大體別個に行動し、五月三十一日棲霞山附近の踏査には同行し、又南京よ